

令和 6 年 3 月 15 日

高山市議会議長 様

次のとおり研修を受講しましたので、その結果を報告します。

用 務	議員質問特別研修「質問聞き取り時の職員対応マニュアル」受講
研 修 先	リファレンス国際ビル貸会議室（東京都）
期 間	令和6年2月13日
講習内容	○参加者 水門義昭、伊東寿充、石原正裕、渡辺甚一、榎隆司、沼津光夫、西本泰輝、水野千恵子、平戸芳文、西田稔、戸田柳平 ①答弁調整はこう使え ・鳥の目とアリの目 ・答弁調整フローチャート ・答弁調整の目的 ・そもそも論 ・答弁調整の目的 ②職員との上手な付き合い方 ・まずは携帯番号をゲット ・会派勉強会を開催 ③質問の趣旨をきちんと伝えよう ・目的は何かを伝えたほうがいい ・原稿の木で説明しよう ④これからの地方議員に必要な能力 ・新しい市民ニーズへ対応 ・地域問題の明確化 ・問題解決の可視化

講習内容

①答弁調整はこう使え

・鳥の目とアリの目

【公務員】

部長＝鳥の目（全体を捉える、広い範囲を高い視点で捉える）

課長＝虫の目（限なく調べる、詳細を注意深く見る）



【政治家】

魚の目（流れをつかむ、潮流を感じてつながりを見る）

蝙蝠の目（発想を崩す、固定観念を取っ払って見る）

立場、肩書による役割と視点の違いを意識する。

・答弁調整フローチャート

質問原稿作成→通告書公開→質問内容聞き取り→担当者答弁作成
→部課長チェック→特別職決裁→答弁調整→議会答弁→再質問

より精度の高い質問、より良い答弁を引き出すためには、「答弁調整」「再質問」時の、専門家である課長へのヒアリングが重要。

・答弁調整の目的

●議会答弁の方向性を知る → 可能性の○△×、その理由

●執行部内に人脈を作る → 職員のダイレクトネット

・そもそも論

With（与党、執行部のマニフェスト支持）

V S （野党、執行部のマニフェスト不支持）

自身の姿勢を明確に捉える。

・答弁調整後のポイント

●必ず答弁内容を把握する → 議事録に残ることを意識する。

●大まかな再質問の準備 → 再質問はシナリオなき論戦。

②職員との上手な付き合い方

・まずは携帯番号をゲット

●相手も早く質問要旨が欲しい → より深い質問と答弁に

●市民相談の時の力強いホットライン → より早い問題解決に

・会派勉強会を開催

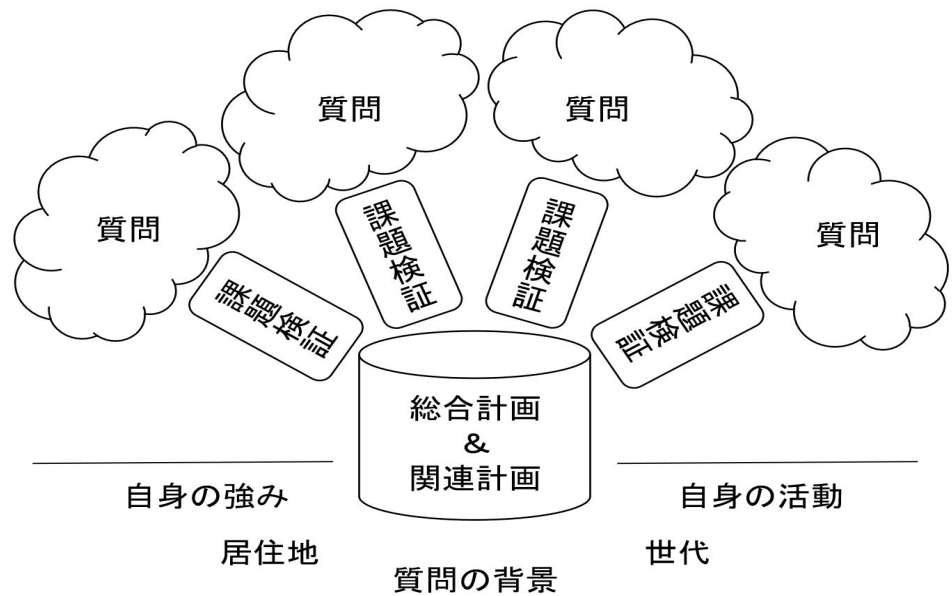
●執行部の本音を探れる → 首脳陣の執念度チェック

●会派の力量が分かる → 出席者の顔ぶれチェック

講習内容

③質問の趣旨をきちんと伝えよう

- ・「目的は何か」を伝えた方がいい
 - 質問するきっかけ（背景）を明瞭化
 - 市はこれまでどんな説明をしてきたか
 - 質問が関与する計画を明確化
 - 市はこれまで関与する計画を明示してきたか
- ・「原稿の木」で説明しよう



◇質問の背景（根）→行政の各種計画と関係法（幹）
→課題検証（枝）→質問（葉）

- 総合計画と市長のマニフェストには常に目を通すべき。
→これらに基づいた質問をすると行政側の反応が全く違う。

④これからの地方議員に必要な能力

- ・新しい市民のニーズへ対応
 - SNS の使い方 → 情報発信と受信のチャンネルを増やす
- ・地域問題の明確化
 - 自治体との関係 → 要望書をもらう、座談会を開く
- ・問題解決の可視化
 - 執行部への陳情 → 要望書提出、公聴会開催、議会の傍聴に

考察

様々な問題、課題が複雑に絡まり、尚且つ変化著しい昨今であるが、これからの時代に求められる自治体とは、

- 効率的・自主的な行政経営をしている
- 市民・NPO 団体と具体的に共同している
- 上記を実現してくれる首長、政治家を選出する

と言える。またこれからの地方議員には、

- 新しい市民ニーズへの対応力
- 地域課題を明確化
- 上記解決プロセスの可視化

これらの能力が求められる。

行政と議会は二代表制であるが、これは常時対立構造であることを義務付けているのではなく、行政と、市民の代表である議会とがそれぞれの視点から、市民生活未来のために、より良い政策を作り、より良い選択をし、より良い公金の使途を決める仕組みである。ビジネスの基本はリサーチとプレゼンテーションだと言われるが、これは行政サービスについても同じである。

市民の声を聞き、行政の活動を分かりやすく伝える。そのためのツールとして、SNSの活用とDXの推進が必須であり、また同様に血の通ったアナログなつながりも必要不可欠である。

行政も議員も人であり市民である。より良い市民生活とより良い未来のために、行政と議会の両輪が上手く回るよう、対話とコミュニケーションのスキルを磨いていきたい。